

3. 6 埼玉県の活動報告

ときめきらいふクラブ

1. 事業概要

(1) 事業の目的

東日本大震災で被災地県外に避難されている方々が、地域で孤立しやすいため、地域の諸団体と連携し、「居場所づくり・ネットワークづくり」を後方支援することを目的とする。

(2) 実施体制、他団体との連携、他地域との連携状況

協力団体：所沢市保健福祉部総務課・・・避難者への情報提供（DM）、
所沢市社会福祉協議会・・・「居場所づくり」相談員、
所沢市三ヶ島第一地区民生委員・児童委員協議会
・・・「居場所づくり」相談員、体験指導
ほっとほっと（ボランティア団体）・・・「居場所づくり」の場所提供

(3) 事業の実施内容

1) 実施日時

第1回「おしゃべりサロン」	2012年10月14日（日）	10:30～15:00
第2回「おしゃべりサロン」	2012年11月11日（日）	10:30～15:00
第3回「おしゃべりサロン」	2012年12月20日（日）	10:30～15:00
第4回「おしゃべりサロン」	2013年1月20日（日）	10:00～15:00
第5回「おしゃべりサロン」	2013年3月9日（土）	13:00～17:00

2) 開催場所 第1回～第4回「おしゃべりサロン」

「ほっとほっと」（所沢市西狭山ヶ丘1-3116-3）

第5回「おしゃべりサロン（中高年いきいき講座）」

所沢市小手指公民館分館

3) 実施内容

第1回目実施

参加者：28名（地域住民：21名、スタッフ7名）

男性：9名、女性：19名

内容：

①あいさつ ときめきらいふクラブ会長 磯 竹栄

②自己紹介 10:40～11:00

③お話し「民生委員のしくみと役割～

所沢市三ヶ島第一地区民生委員・児童委員協議会 小原共子氏

④参加者の意見交換 11:00～12:00

*避難者に関する情報不足、どこに、誰が在住か分からない。

*誘ったり、声かけができない。個人情報の面で難しい点がある。

*行政と連携を密に勧められないか

(行政は、所沢市在住の避難者82世帯＝168名にDMを担当した)

*事前に避難者の「福島色」が強かった。宮城県人の避難者にも伝わったのか？

*大変良いイベントであり、避難者への呼びかけに工夫が必要ではないか。

*地区の民生委員の立場で、声かけが難しいところもある。(避難者の情報が少ない)

○飛び入れによる「ハーモニカ演奏」 ふるさと、青い山脈などをみんなで合唱して楽しむ。

ボランティア団体による「手作りチャーハン」を食べる。

⑤牛乳パックで小物づくり体験 13:00～14:25

先生の指導により「ペン立て」をつくる。熱心のあまり、口数が少なく集中していたのが印象的でした。みなさんが造った作品は持ち帰った。



ち

第2回目実施

参加者：25名（地域住民：18名、スタッフ7名）

男性：8名、女性：17名

内容：

①あいさつ ときめきらいふクラブ会長 磯 竹栄

②講義 10:40～11:40

「福祉総務課の仕事と地域への関わり方、現状と課題」

所沢市保健福祉部福祉総務課主事 石平貴浩氏

③上映会「普通の生活」 13:00～14:20（上映時間：80分）

*上映に先駆けて、映画の概要解説（4/15～5/5まで現地に入り、震災後の後片付けのボランティアをしながら、カメラを回し、また一般市民に直接インタビューをして、編集を経て80分にまとめたこと。）

主な感想

*生々しい実態を見て、震災の物凄さを実感した。

*線量が多い地区の「帰りたいが帰れない」「どうすることもできないもどかしさを感じた」

*当事者は、家族が数か所に避難、子供と母親、父親は単身で働くなど、バラバラな生活を強いられているが耐えられない気持ちになった。

*テレビで放映された同じような場面があり、また思い出した。かわいそうになった。

*学生を持つ母親が、子供の帰省を拒否する姿は痛々しく思った。

*早く故郷へ帰れるよう国や自治体でやって欲しい。

④交流会 14:40～14:55

参加者の意見交換

*避難者に関する情報不足、どこに、誰が在住か分からない。

*近所に避難している家族は、子供とお母さんですが、誘ったり、声かけをしたりしても、今は落ち着いているからなどと言っています。

*行政と連携を密に勧められないか

*民生委員でも、情報が少なく、誘い難い。

*避難者は、いろいろ聞かれるのが、嫌だ。ほっといてくれと言わんばかり。

*行政も、情報を開示して、一緒にやって欲しい。



第3回目実施

参加者：27名（地域住民：21名、スタッフ6名）

男性：8名、女性：19名

内容：

①あいさつ ときめきらいふクラブ事務局長 三谷雅昭

②講義－1 10:40～11:30

講師：増田和高先生（早稲田大学人間科学学術院助手）

「人と地域のつながり」について

③講義－2 11:30～12:00

講師：坂口葉子氏（三ヶ島第1地域包括支援センター）

「脳を鍛えていつまでも元気に」について

④フラダンス 13:30～14:10

講師：時田孝子氏（ボランティアサークル代表）

⑤懇談・交流会 14:10～14:40

避難者について感じていること、避難者をどう支援したらよいか等について忌憚なく意見交換した。主な意見は次のとおり。

*個人情報保護の制約で直接避難者と接触できないもどかしさがある。何か打つ手はないのか。

*「何でも相談してください」、は行きにくい、「一つの課題に一つの相談」にしてはどうか？

*避難者を行政で雇用、他の避難者との懸け橋とする。（越谷市）

*福島に帰るか、残るか、迷っている人が多く、職探しに本腰が入らず、意志決定できない人が多いのでは？

*おしゃべりサロンの開催は、いろいろな方と交流が出来て、良かった。知らないところも知れた。



第4回目実施

参加者：31名（地域住民：23名、スタッフ8名）

男性：9名、女性：22名

内容

①あいさつ ときめきらいふクラブ会長 磯 竹栄

②講話－1 10:40～11:30

テーマ：地域の見守りについて～福島の実況を見て、その思いから～

講師：講師：所沢市三ヶ島地区自治連副会長兼9区区長 横溝哲夫氏

③講話－2 12:30～13:40

テーマ：「3. 11から2年、今できること、今後やらねばならないこと」
～社協の立場から～

講師：社会福祉法人所沢市社会福祉協議会地域福祉企画課主任 水村康夫氏

④アトラクション：「マジックショー」 13:40～14:20

講師：ヤギー四朗人 柳沼清喜氏

紐やトランプを使い、巧みに演じ、関心と爆笑を誘った。目の前で演じる手つき、身ぶりを見ても種明かしができず、真剣に見入っていた。リフレッシュ出来た一時だった。

⑤懇談・交流会 14:20～14:50

講話①、②を聞いて、その話題を中心に意見や感想が話された。

*実際に現地ボランティアに参加した話が聞けて良かった。災害の実態が良く分かった。

*社協のボランティア活動の仕組み、取り組みが良く分かった。

*災害ボランティアセンターの役割等、理解できた。もっと早くお話を聞きたかった。

*おしゃべりサロンの企画は大変良かった。これからも続けられれば良いと思います。



与

第5回目実施（中高年いきいき講座）

参加者：196名

（一般：167名、スタッフ：22名、来賓：3名、講師：4名）

内容：

①上映会「普通の生活」～福島原発のドキュメンタリー映画～

ごく当り前の「子どもが外で遊ぶ」「四季のものを楽しむ」など「普通の生活」が奪われてしまった現実が浮き彫りにされた。原発20キロ以内が封鎖、日々線量計が音を立てる中、帰りたいが帰れないなど、生々しい映像が映され

ていた。言うまでもないが、二度とこのような事故があってはならない。避難者の現実を理解し、どのような支援が出来るか。改めて考えさせられた。

②避難者からのメッセージ ～避難の体験を語る～ 15:00～15:40

南相馬市から避難し、入間市にラーメン店を開業した、つながり食堂店主の佐藤義治氏からのメッセージ。

南相馬市から家族（夫婦、子供2人）と共に所沢市に避難して、僅か3ヶ月後の2011年6月に入間市にラーメン店（つながり食堂）を開業。一方食堂を経営する傍ら、県内外のイベントに参加、南相馬市の現状を直接伝えたり、チャリティグッズを販売し、義援金を寄付したり、避難者が自立した生活を送れるよう支援活動を行っている。

③アトラクション

- ・バルーンアート＝山北由香氏 15:40～16:20

華やかな衣装で登場、相方と2人でバルーンの演技を行った。

- ・プチコンサート＝新井香代子氏 16:20～16:50

2. 事業成果

(1) 成果

- 1) 当クラブと行政、社会福祉協議会、地域の民生・児童委員、ボランティア団体等の連携を図り実施できたこと
第1回～5回まで行政や社会福祉協議会の職員が参加し、コミュニケーションが出来たこと
- 2) 避難者支援のネットワーク構築の足掛かりができ、今後の活動を前向きに進められること
- 3) 今回のイベントを通して、所沢ロータリークラブの避難支援活動実態（例：アパート・パソコン貸与、食堂開設準備のための緊急必要物資供給などに貢献し、被災後3ヶ月で食堂開設した）に接し、今後の活動に連携が取れる見通しができたこと
- 4) 行政は、避難者に対して「おしゃべりサロン」開催情報を提供し、ボランティア団体は、会場「ほっとほっと」の貸与、及び講話や物づくり体験教室などの講師を担当し、それぞれが役割を分担したこと
- 5) 地域の民生・児童委員等により現地視察し報告を行い、参加者が情報を共有できたこと
- 6) 会場は、30名収容人数のため、身近に意思疎通が可能であり、終始和やかに会話が出来たこと

(2) 問題点・課題

- 1) 個人情報の壁があり、避難者に関する情報（居住、連絡先等）がなく、口コミでのおしゃべりサロン開催情報が伝えられなかった。
- 2) 今後、おしゃべりサロンの継続が可能かどうか。資金面や会場の確保をどうするか。
- 3) 行政や諸団体とネットワークづくりを推進し、支援体制を図るために、避難者との接点をどう持つか。
- 4) 地域の民生・児童委員や、ボランティア団体等とどのように連携を図って行くか。
- 5) 今後、支援を継続するためには、まず当クラブの運用資金や人材面のパワーアップが必要である。